

茅堂號
傳家
寅號

明治三十年
養浩堂主人
福祿壽
丁酉目錄



早稲田大学図書館
文書27
A93
1

明治三十年丁酉日録

栗香山人六十歳

一月元日

早起長浩堂中央福祿赤の夫人の物
也け左女と首身大人の七十年未始
自淑と難意と捉とる物と聯列し古
解とあり大鷹一雙と鶴と松梅と
錦と一花弁と天と春と日と氣と
中
の所り洋風と和風とを中央明鏡と
と和堂と相國と月日と光陽氣と

ありて上西水温浴も隔日ありて大磯招仙酒
方二直之。松十石の酒等、数回
申す時

黒田伯初及以禮ありて代人といふ所と賜来
年及徳兵衛春年、阿徳昭考より初年
下徳親来青山山所、所よりありて地所より
別房の儀、山寺より沢長政、柿崎の儀
別安長男、沼男、海軍、吉男、陸軍、兼中
實行の儀、感謝心ありて松十石の酒等
あり

向高石花園
新年御事
層層と佳き

年及膳伯
年及晩飯
層層と佳き
約り
七十共、去来

とて、貴族院と、新年宴酒饗と、賜あり
とて、大禮賜と、表位賜と、有任者、賜あり、改正
とて、用不立子通常、禮賜と、不面白
賜不來也、と
長及、御事、御事、有出、と、と、と、と、と、と、
宮中、と、御事、御事、御事、御事、御事、御事、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
松方内閣、開初、り、天氣、人氣、何やら、不佳、と、
況なり、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

明に近江改行し、松本へと暫くして、白
中を詰責せしむ

二日 雨 止所

おや、名残りの名残、延期を、中丁人、不逞、其
家の上、不都、其、其

晩天雨所、御座、行、出、座、之、遠、眼鏡、之、近、眼鏡
之、買、お、市、松、所、海、水、流、ま、あ、相、中、中、内、石、密、相
之、心、お、買、い、御、座、。柿、崎、へ、上、杉、田、し、上、野、親、
報、あ、り、。清、石、即、西、宮、へ、白、海、を、お、買、い、御、座、。

七日 晴 午後 松本 既定

午前、お、お、代、山、下、母、日、迄、方、織、行、大、八、之、を
送、り、お、お、日、行、り、お、徳、お、お、之、送、来

午後、上、杉、田、の、錫、卵、一、袋、持、来、伯、尾、居、杉、田、親、
海、へ、お、お、名、方、到、有、り、。月、下、の、風、浪、を、し、歩、得、年、族
昔、稀、り、り、

八日 晴

貴族院、出、席、し、る、。表、議、員、の、開、席、の、れ、上、方、院、之
休、會、の、り、を、お、お、名、方、の、後、お、お、居、馬、込、原、新、
出、物、多、く、お、お、長、杉、浦、の、腦、立、五、者、物、也

午後、お、お、名、方、の、お、お、榊、山、の、田、舎、を、お、お、名、方、の、お、お、名、方、

淺院于賀○祝三出所獲入して十二時五分大
機行く明山十母、物宅土、
相志、
二十日

貴族院請願室出席

午時立花日、
時刻尚早、
是年揚る鶏、
上杉心、
香取官助、

蒲萄酒、

晚方祝花、
まゝ

二十日、

大磯、

午後、
揚伊勢、
伯耆、
爽、
二流、

士師等内大臣ありたり大吏係法設身若大吏
使や抑々宮中より被置り將行府中より設けらるる
まゝの議論あり内閣より大吏費を國庫より支
辨する内閣中より設けらるる一主張は宮内
省より費額の内より多し物皇女御内侍等
あり職目之を宮中より置らるる通ら
血氣は妙に振舞はるる到底流儀を
と射る瀛海を海跡を射るに
何れも之を可且子官ありと
推し減點を共設けらるる
思ひ

材を結局國民有權を經費に對し之を王
室より取り扱はるる民情如何に人権問題
あり方あり御費額の内より通らるる
各勸心官より其の子差内より書翰を爲し
松平より降参り風を流し電信電話成
一切制或は凝滞不用あり
年内各勸心官十二名を召集し
御着て評定諸官内省御然りの事あり
と法設けり此を最徳に勸導と
事あり

まゝ大表使の設立の事

皇帝の如き御沙汰あるべき事

皇祖の葬儀將來の表準とて教へらるる一

時臣民哀悼忠愛の感情を任じ經費を

省らして本張成血大に失し 皇祖の葬儀を

超越するものなきに却り 皇祖の體より

あのみならず則ち後昆に傳へし所以の切なきを

有り宜く認め給ふ程限を立て茲に

まゝと執行せらる

黒田伯耆守の書と 諸論せらるる感

余黒田守の日記に因り明治己巳二月十二

月十八日大久保黒田木戸品川出帆後長州内福

驛御終極孫七帝昔の藩政を有り奇兵隊

是を初めとて記す 歎末

黒田守の木戸保に依頼する 大久保侯と白船

長州の御沙汰 未年より長州の奔走を此に

長州の都立軍 且維新の兵部大臣を

久長州の兵の難を 長州の依頼を

りし 馬関より

陸湯田の松田より 大久保と

山城より正月言
拜過す

長州侯の父子拜過す御付候より厚く御願
ありて大久保の雪舟墨堂畫の筆寫の物と爲
自分より正月の後藤藤之作三所抄の讀船
の圖のて成十折あり讀船の多り公光
公の過し長州の先難と説き兵備を先向
そ亦加修りて成らり上久光公の海濱を成
西郷より知ありしより西郷首首を長州に
初より病を初一日の下面白穿の軍符
そしあり祝祭の上は置すべしもの事
おる黒向を城を界し大久保を翻りて西

の御案と申すり甲寅のし大久保の宅あり
海の舟一首を賦し
謝意の被り傷非心此裏情懐好酒
誰春雨蕭々多感夕青燈高館
對杯時
あり大久保侯と長崎より長崎あり大坂あり
長州の御辭と界し均系より西郷大薩州より
夢龍船の村田新八相野利秋大山強明と
持携りて長州赴き形より身細大山侯と記
臆とべしそ時木戸塔に己の危き及を免す

方之傳思田山々々々
如音與又弟山々々
ハ

坊ノ木戸之宅ニ兄弟山々々々あり者兵之之禮
山々々々先施を免日坊ノ弟時木戸侯之御
并而為哉相坊ノ黒田ノ先生ニニ呼稱其
先生心々芳来々々一々産あり

二千二百金曜

貴族院身負居浅出者

日護所大塚靴店ニ以四圓幸銘之禮を賣

貴衆而院識負之天表儀の夫列もぐし様

礼々依り靴履を感履白襟飾毛有ヤハ内地軍

上フランク下礼禮式之關係品物々々精取

山下母方職々産々々々々々虎傳取持系

晩方々青山威曜院様常修院様震実院正

道院暮年酒々辭々

大山福山々坊々々々々伊勢山中材木々々

我々間々川々後々々々人家劣鏡列々道儀修正

純州有為侯々金相々々々獵夫々々人勝初様々出々

小島様猪々々十一段射儀々々々長岡護美

主人役々様々川村坊日己々々運勤自平様々

楽々々々々吹伝祀々々々加州々人氏生外若海軍大

伏々職佛方々造船臨督々々々四年常々々々々

漢漢方馬刺少之活一む攻野之傳方是方
針と指症一の此者如く漢道子ま(まよ)た司
只減法界の^和變まらじ口以薩人^の若者
身非常の^増激ま^り伊東巳代^の松方内閣
忠臣^の然^に成^る家^の難^を於^る如^く早^に晚^に
難^し一白^の大^に坂^に度^を報^を踏^ま一む^の知^る
予^の夫^を日^に改^める^を也^に
先^帝の^時の^形古^の制^を一白^の大^に勢^を知^る今
之^を金^を之^を百^を年^を爲^る七^を消^する^べし^の時^に金^を之^を二^を七^を
与^ふ之^を經^る費^を也^に

均宅院新橋を^て式^を職^を迎^へる^を大^に
お^の成^る我^の授^け均^宅院^に徳^を来^りて^は呪^を呪^を一
日^に觀^望

宮内大臣より 皇太后陛下に御葬進考着
割告示二月二十日正午十二時青山所出の門
外には有儀車葉御車着車二月二十日正午
以前三十分京都傳車均着御二十分前
三月分同所出及舞車大宮御所着御 二月七日
午後二時大宮御所出及極月福山御所均着
御二十分前出齋坊式二月八日午前四時御所出

阿松栲杖、其、了、病、

廿六、

お如、す、當、所、山、下、家、族、く、相、合、好、切、也

里、向、傳、天、海、傳、正、く、二、代、家、光、教、訓、書、也

位、位、く、也、す、

陸、軍、經、理、者、極、く、木、材、集、不、束、六、八、二、部

法、学、教、授、く、お、談、也、

平、川、町、宅、地、鏡、六、圓、九、十、二、部、を、收、也

黒、田、く、郵、便、局、直、に、居、る、也、

廿七、

貴族院出勤証、陸、海、兵、官、兵、隊、年、報、出、洋、候、

二月百終日

昨日雨降解任の事は終つたと思ふ

と云ふ事思ひ合はれ申上り申す

改訂の事も雨の事は泥濘の中

用書山所所事古紙に拜礼を感念

申上り大直冬令拜申す

お徳事力湯暖方物。金銀

陸軍經理学校より大八支那派

二月半園身如金結多之辭令

車未識花不将之會有之也

朝雨正午時
御衣長若極
天下靜肅唯西陸
祀於あまのりみ
御衣端共
兼無天位御禮
を捧げし

二日朝雨を極振風
早天と降雨甚ししと名如の言日共西宮
英照皇太后陛下下之靈極高山所
正午と降雨を極振風と名如の言日共西宮
大八世皇孫と名如の言日共西宮
西宮と名如の言日共西宮
相方端理黒田議長西邸大隈法大臣
送るべき言を捧げしと名如の言日共西宮
皇太后の御衣と名如の言日共西宮

此世に於て
是より海能高修
九月一拜
山
たし
余
之先
終
海
日光
日先
皇太后の御衣と名如の言日共西宮
西宮と名如の言日共西宮
相方端理黒田議長西邸大隈法大臣
送るべき言を捧げしと名如の言日共西宮
皇太后の御衣と名如の言日共西宮

娘とつと来。浅草奴産行とて居り上京
防合とて居り

四。

柳河原子匠とて居り。目黒とて居り。

古為多し地紙と細毛。長政多し小的

勝伯行吹食とて居り。大表とて居り。

相六八とて友人長和川権布刀来面會

廿日 此表とて居り。西行

午前四時起頭長政徳川院とて居り。三十一日
宅新柳とて居り。貴族院とて居り。中茅瀛車とて居り。

御所より廻政寺町より木匠所より長政旅宿より
 平琴平の東山鴨水之空果より平琴平より長政
 目道寺の地母堂より黒字末因寺より黒字末より二條
 坂之過より清水親看考詣寒風裂面凜冽誅其
 思下山ノ隈坂之陶器師六名湯ノ裏の茶椀之
 箇種福壽之抄三抄より黒字末因寺より出
 抄の長政より晩餐夜時次場長政風通徹之細
 酒之花之
 松平慶成殊々猛烈火燧身七共為行七布
 之地之皆之區

七日晴

朝起雲岸白地不成形庭前池水結氷音
 寂人曰く湯冬心不始より之氣あり

長政之書より申午前七時行の約七
 延引皮も。略置也代冒七十三抄

一 拍金 酒查

一 廿六圓 自々懐中

一 三十四二十五圓 旅費之分

一 十七圓少圓 銅貨

如屋八指圓四十三圓少圓

一年後大禮服之支度及後之吉備と其の防之に
用意とあり

亦其の電燈劍鉞と其の具とあり

午後之の隣寓馬屋原より有徳引

午後四時二十分相食とあり大禮服用とあり

長崎海月人力沙引より白土宅

四條繩中より五條と出て伏見街道大佛前より三平

三間堂角より下車夫より長政より歩行真宗中堂

桜川前より樹原名刺とあり考別券とあり休息の

より貴衆勲院とありとあり休息より其の時三十分

より其の前よりとあり休息の終りより其の情燼とあり
海月防之

英皇太后御靈柩とあり六時大宮より及車十時次

後月輪より如着とあり海月橋より側より牛車とあり

御靈柩の御靈柩齋場より拜母

休息のより事務官業内より不料上り行の休息

より歩行南山より馬車松間一條路に於て炬火

算火と燒き電球燈が柱高より燈の如きあり

夢の浮揚とあり向より道より右より大牛車あり

有山門登りより其のより齋場より齋場より園西

舊曆之新年町人日多むらし久乃三年乃少陰
從萬壽梅の事し一后と語三十年前より兄
中東の事亦似れ事とめりて一首と題す
三十年思舊遊の難分勝概乃誰傳訪
春人日共兄弟東解江南萬壽梅
弟は梅の額山陽飛鳥真蹟あり公化於西
吹の事あり萬壽梅の海器と水の梅を梅
の婦人より三十年前より白鳥の老釋の秘書
松より我の三十年前より松より一松あり
之の海軍より集りて七條より長治の別坊寓居

清と衣す疲勞絶後 古馬流る身周す
九・晴風之
予前日の事今日見じ家信の遊お竹と木堂
古馬あり
予前日條通の事九代より女子を産す事襟袖
を買求むる故木屋の水月梅の訪長治の雨後予
登海と着東山と眺の観水
予故の并車一帯古材訪仙堂と訪石川丈山と六
品を觀日庭前の泉水と常より古梅樹の丈山と
拙の物ありと笑り門外類多梅園と堂の中庭

今朝風雨昨夜四時大梅時之火子見舞多大年
以之休息一切如常

年以貴族院之江及長中根重之七次上京中
海詳之由矣

西黑田之訪而宇治茶商後梅之海器及
宇治茶也了事酒中矣出埋葬之自者

御所拜礼ありと云ふ

二月十日 土

片日貴族院休會

貴族院議負白菊心原志忱重去と云ふ

式等と云ふ會葬心原志忱重去と云ふ

午時儀と初宇治茶七贈

長吉川權左平廣右衛門尉、江雁大八軒振

心原志忱重去と云ふ、洋食、取寄也、片山生及

張繪子と云ふ、致大、為對食了

十四 日曜

妙晴之風小彩生昨年十月、お、宇治、入宇治、及心

長吉川、池、河、法、心、原、方、團、會、お、別、子、供、皆、新

梅、心、長、吉、川、と、云、ふ

年、後、長、政、と、云、ふ、河、引、向、京、上、以、觀、梅、百、花、園、と、云、ふ

早梅方之我野野、用花之美人如織娘之群
集之、言上、昨秋洪水及園林、移狀、我、痕、海
何、白花園之、我、入、心、勸、且、昨
年、世、話、中、晴、黑、田、之、零、水、流、之、為、波、之、木、板、
刻、み、た、り、と、と、人、の、我、を、し、且、家、是、之、書、畫、物、
と、と、出、し、晚、觀、之、一、年、年、乙、未、此、世、亦、多、此、洋、
艦、隊、陣、狀、之、目、多、可、謂、奇、
何、途、淺、草、如、履、之、長、政、之、對、的、之、ホ、シ、食、
之、京、師、以、弟、之、保、養、也、
十書

十七、
おや、の、御、尊、お、と、再、尚、財、助、録、也、

上段、瀧、掃、御、在、宅、京、都、經、費、之、幼、字、也、

十八、
西、京、河、原、町、岡、本、六、之、書、狀、也、

十九、

貴族院出勤、大坂東京砲兵工廠、据置運
轉、資、本、坊、加、千、位、製、織、所、資、本、坊、加、以、之、廣、業、
說明

二十、
十八日
貴族院出勤、開議、政府提出、產業組合、法、及、字、札

曆に關し、取締法に臺灣總督府特別會計
法を産業組合に授け、農商務大臣演壇婚
擇出相、西京に表出、大臣の
初多野路、西京にありし中、
凡月堂に、菓子を買ひ給ふ。

十九日

貴族院休層。黒田侯の姉君に忌帯引
に、報り、菓子一打、丸舞を、
年以、黒田侯の知事、村田と、
萬、黒田侯の、淡り、黒田侯の、
相、黒田侯の、

艘と、取著、女、徳、島、善、福、寺、寒、紅、梅
と、天、年、二、月、馬、関、嶺、和、次、取、寄、テ、函、枝
と、継、木、枝、し、ん、ん、當、年、の、嘆、き、初、め、け、り、仍、の、片、面、議
院、に、治、初、の、國、防、の、平、和、に、保、障、多、く、初、議
と、存、づ、き、平、和、梅、と、名、け、ら、れ、り、此、梅、は、六、年、先、き、成
木、仰、着、次、帝、國、充、實、の、光、榮、を、ん、も、默
觀、し、る、故、し、と、り、

金、貨、の、バ、イ、カ、ル、湖、水、を、起、へ、シ、ペ、リ、ヤ、イル、コ、ウ、を、砂、金、と
取、盛、り、上、砂、金、と、金、塊、を、製、造、し、一、塊、成
拾、貫、自、り、之、を、山、積、し、一、旦、バ、イ、ル、ヒ、ル、ク、通、

貨幣之直一夫より種々細之直一
文久三年七月英國軍艦之鹿兒島湾に寄
り島津久光公千眼を害す之除あり此時
黒河了女軍相と西郷隆盛と遠島に在
り免れり有者歎願書建言あり此久光
亦筆を付紙一紙

西郷隆盛年禁下之関と着るを愛ふ何
事七中一置り上坂と外傲慢と奉
勅ふり之を赦免する者なき事
まじし未之股ありんか之を及ぶ者ありし黒河

手書久光の書一書一書活あり
折田山形縣に在りし職中米海に因り弟洲口も
かひしエゴナ、ミガ、カセ、食、の、咽、不、平

昨夜大雪

二十日

午前五時迄大地を覆ふる大雪あり長一起生
東豊を閉り大雪、園林に感生
十時矣、族院に勤、兵部大坂砲台之敵、拒置、千、何、疑
賊、所、有、作、可、交
午、後、五、時、許、友、手、會、河、途、山、下、徳、子、と、決

上京德沛里并院亭入東家計政算意見書持本
平川剛帥之萬田之委却之方法之其乃新
全之注意あり篤く切考之し一節也

世目

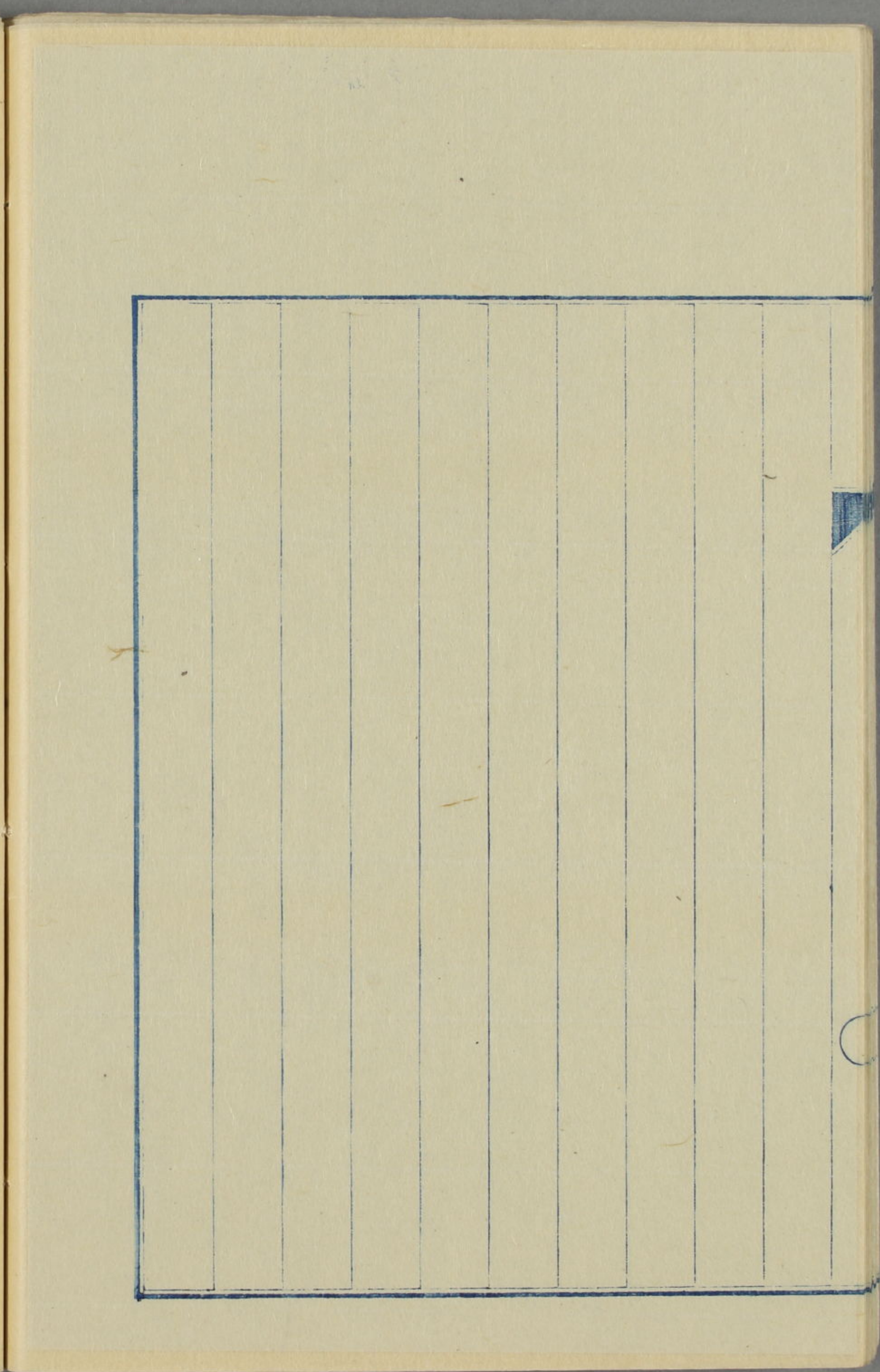
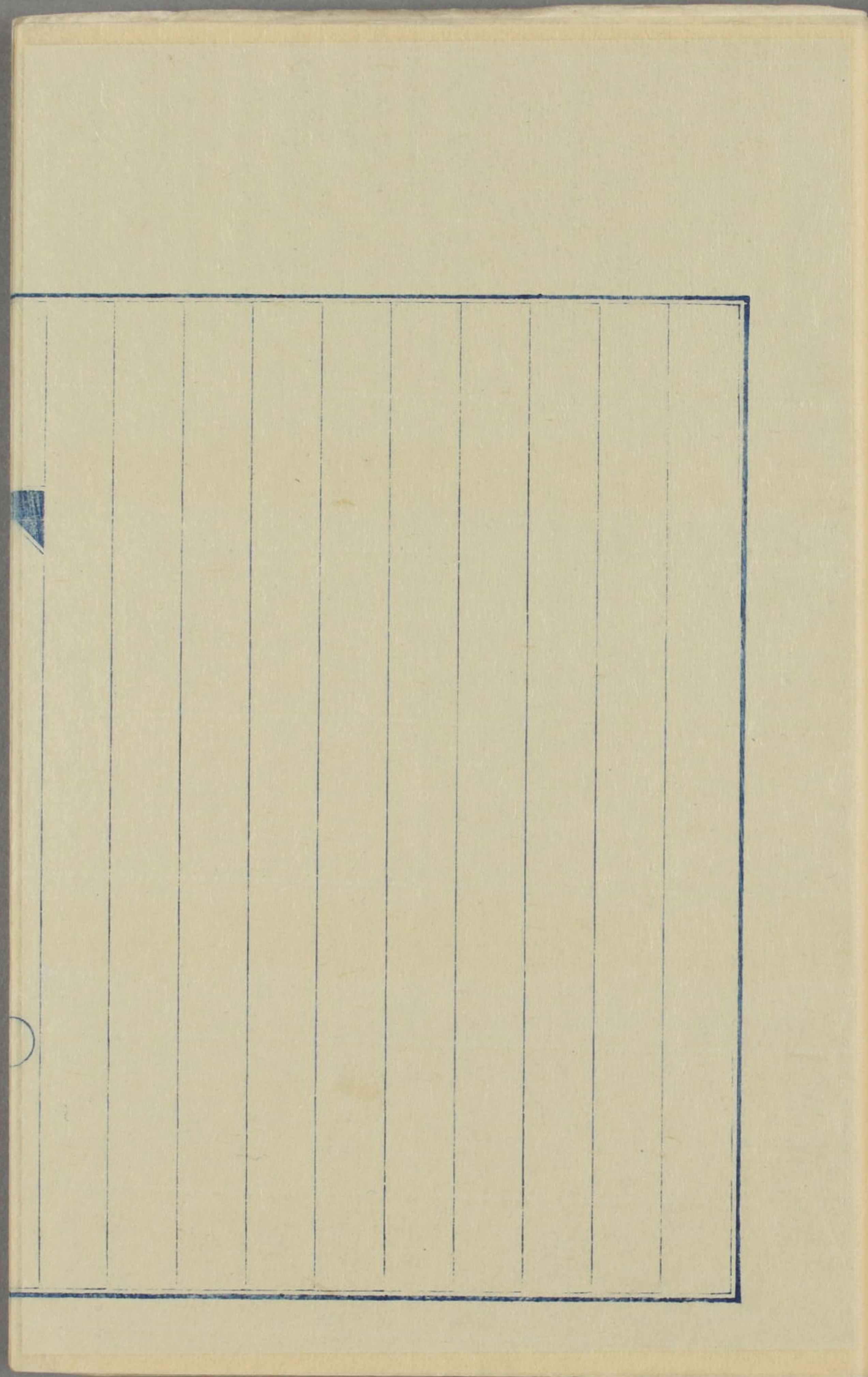
目黒未之口局上移晴道君之墓守大八世迄之
張海之書とてし之禮物贈求之出物

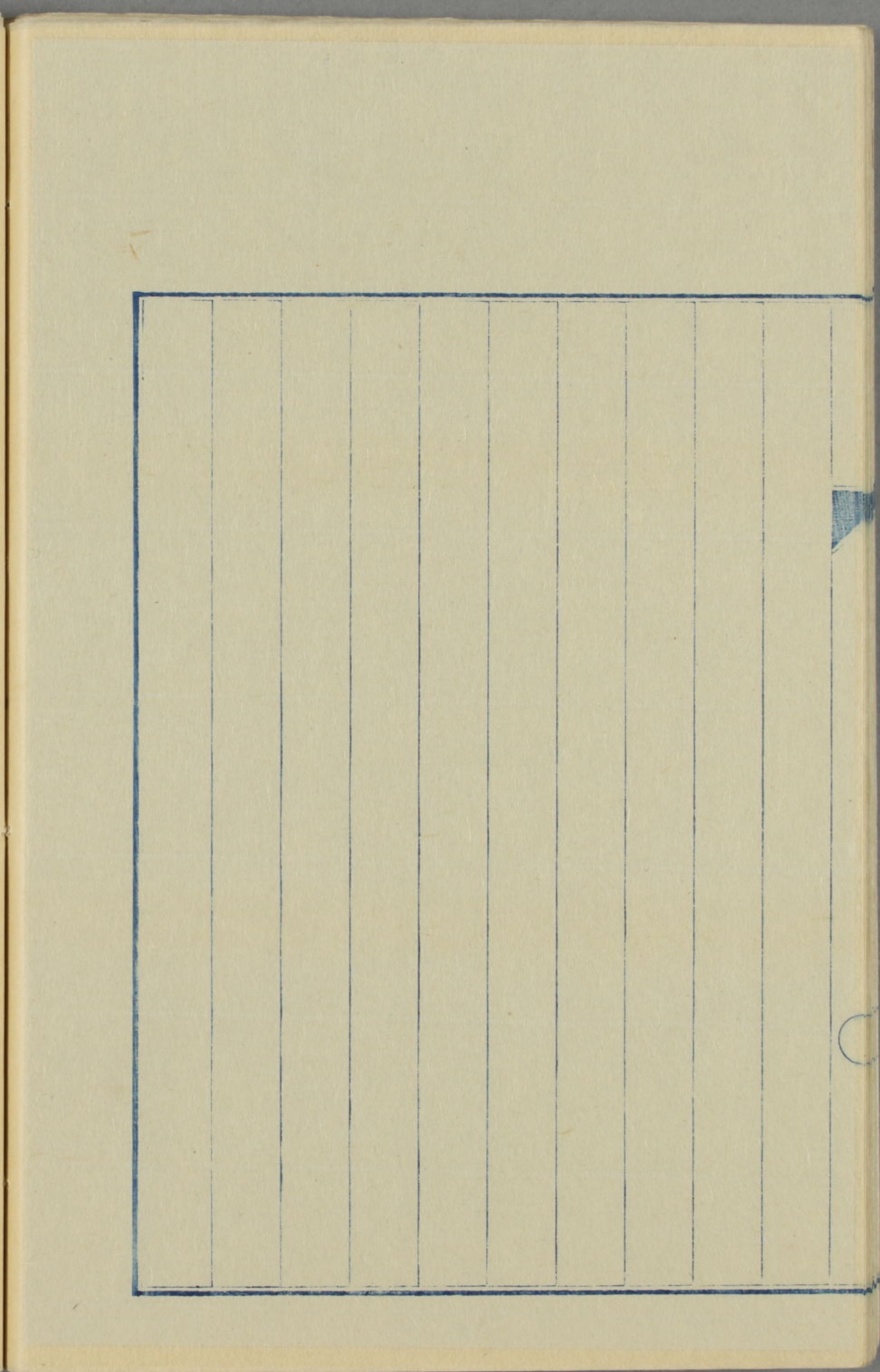
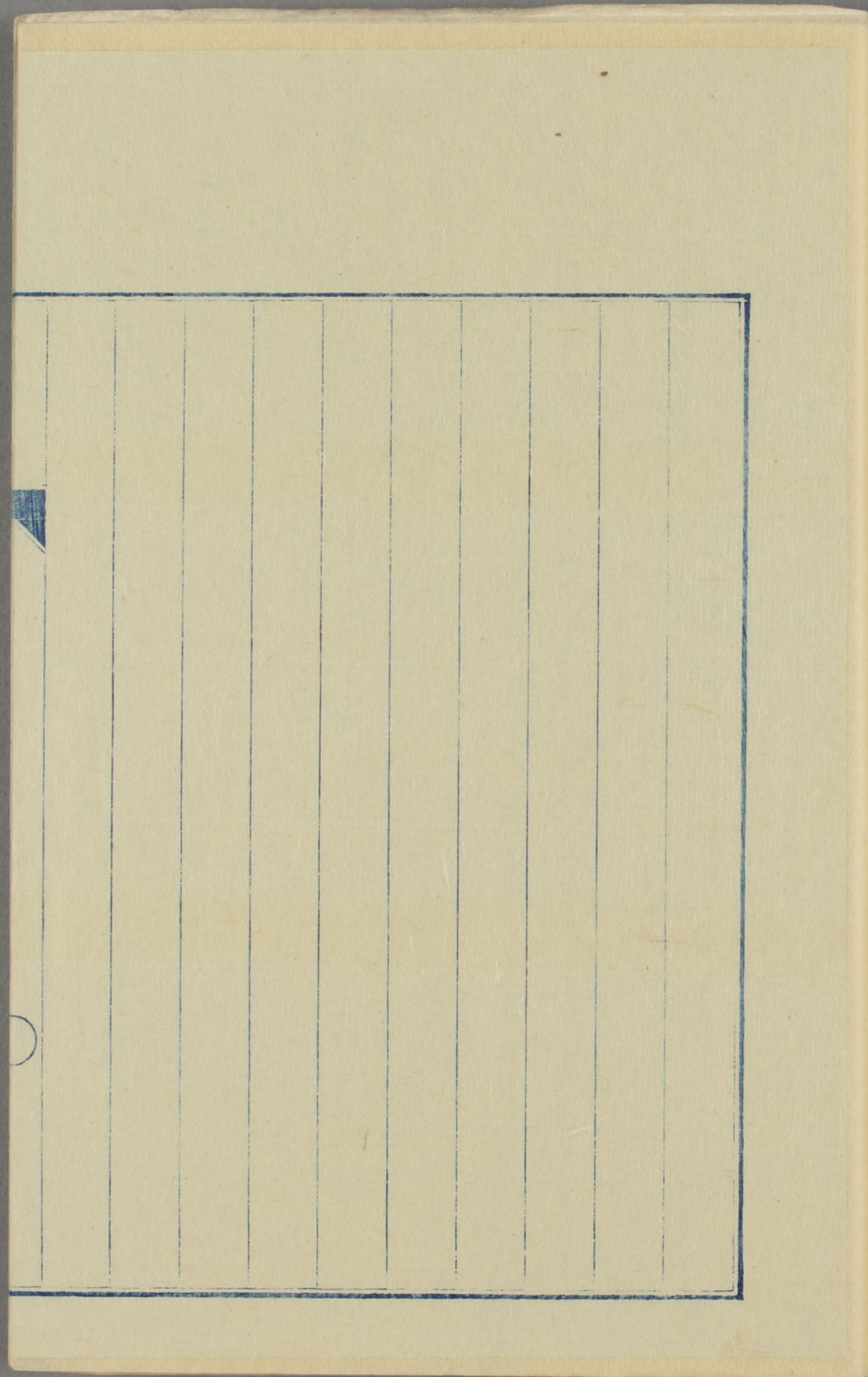
午好長波之弟友之居之金四十四圓也

目黒大八山水之軸物諸制之其後之買心書

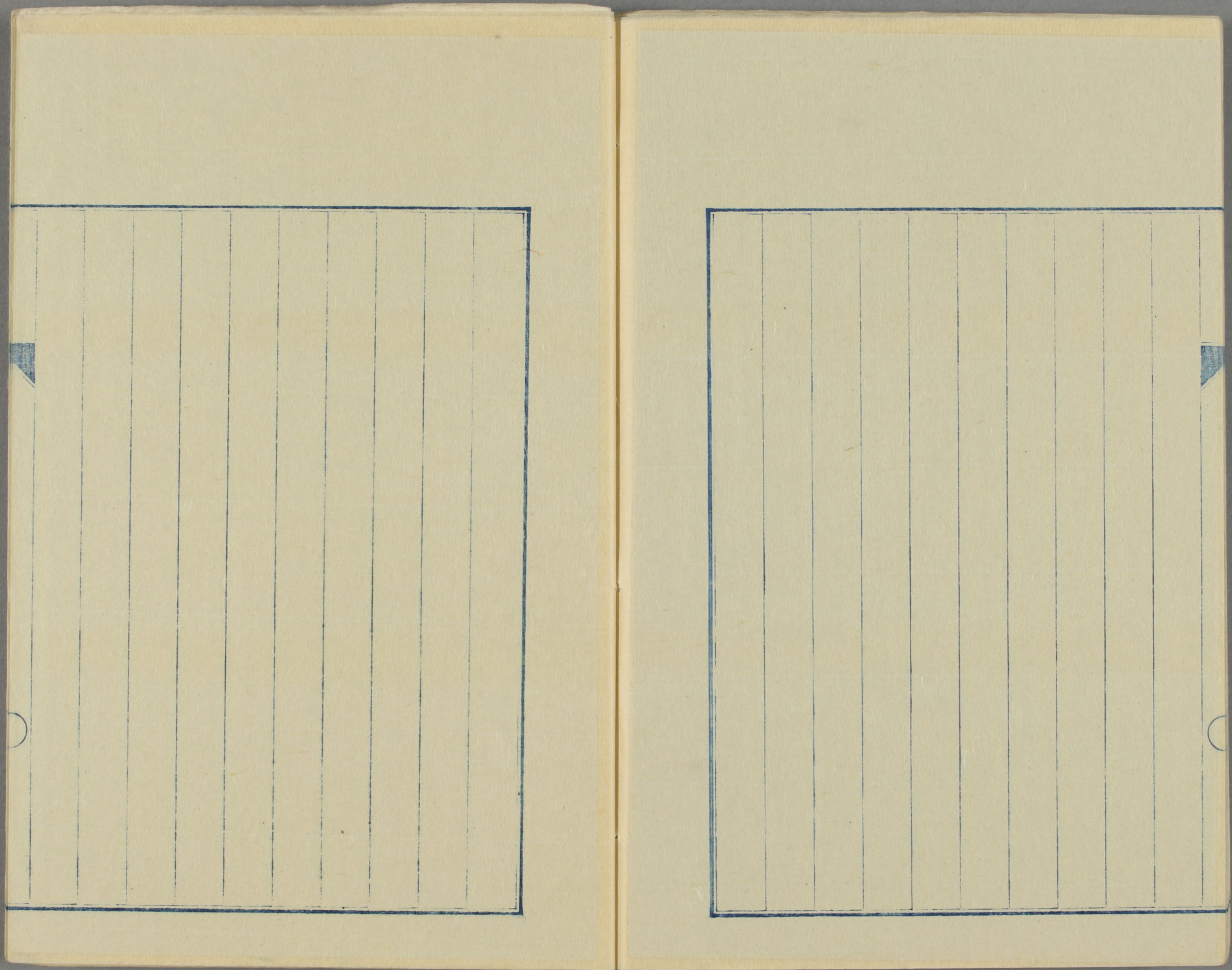
張海之書とてし之禮物贈求之出物

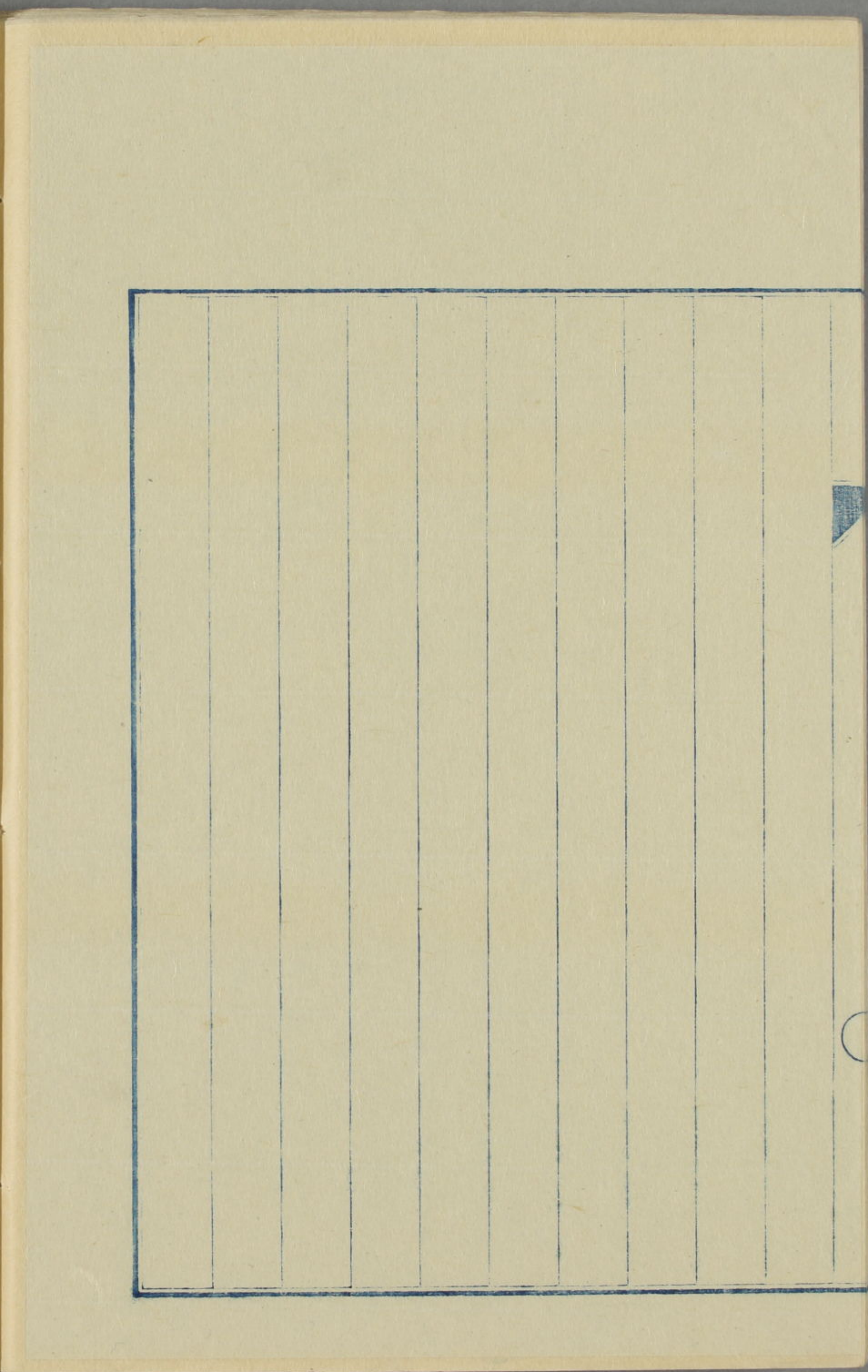
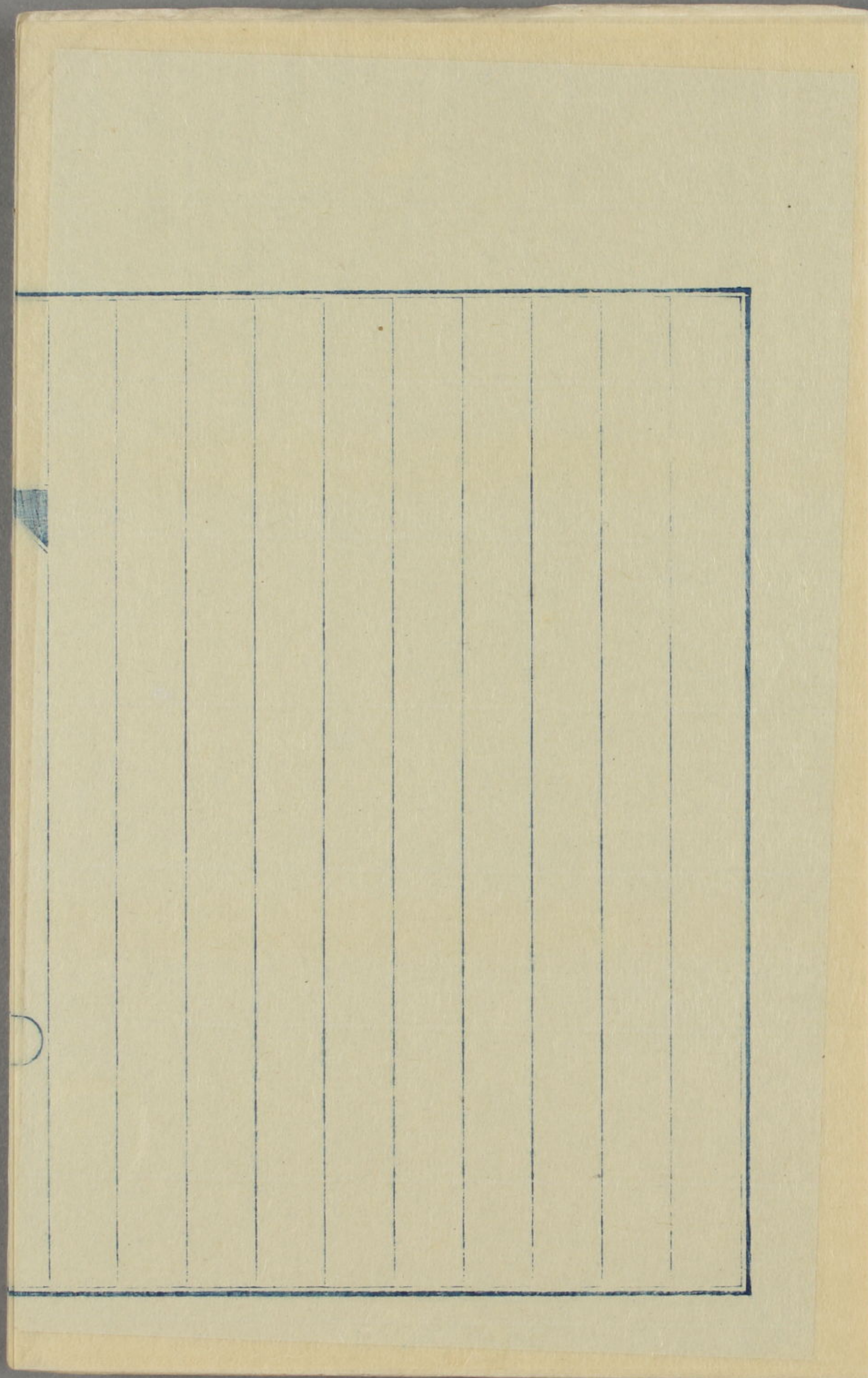
持山内相之改癰之切書

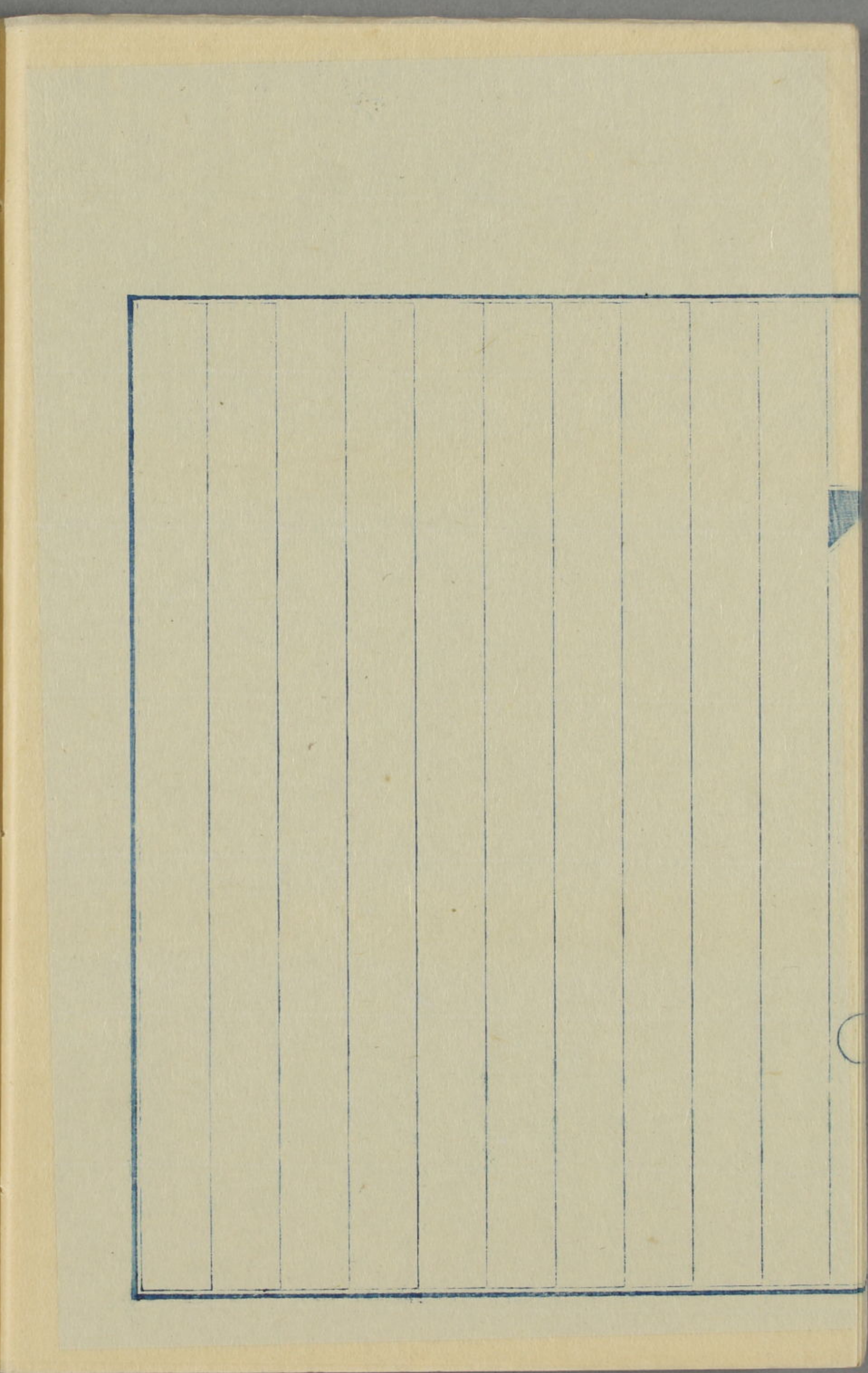
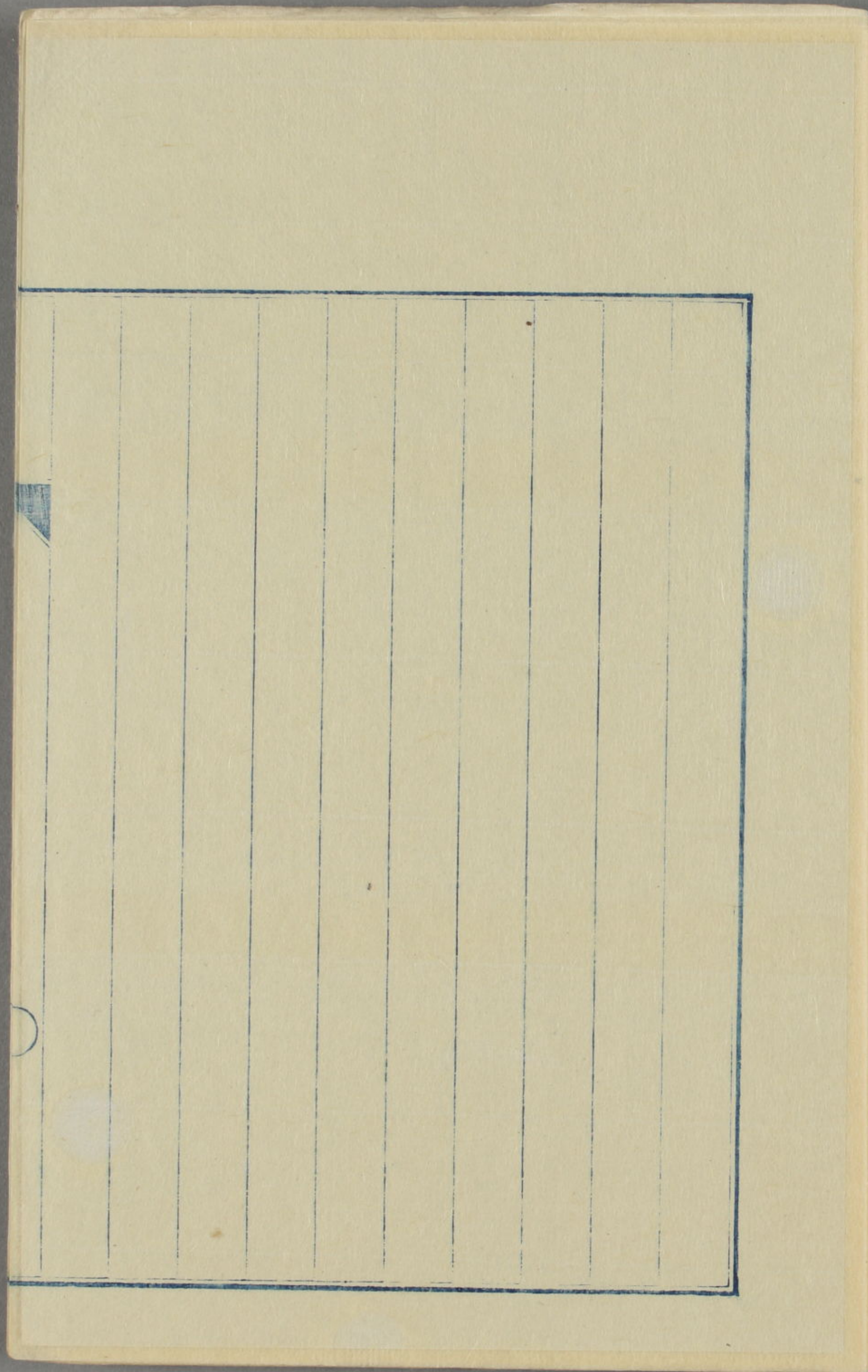




予好問於人訪海之說不啻如雪之自天而下
予呼來其世勅亦表之經費國之民之在也
枋方代表子內有之也方一或也也也也也也
之衝委以存之也也也也也也也也也也也也
南之入也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也







七月七日貴族院議中

明治十七年三月布告

地租條例第一條
第一條
地租條例第一條
第一條
地租條例第一條
第一條
地租條例第一條
第一條

地租之分
田畑地價百分之三
箇五十分之一
郡村宅地市街宅地
田畑地地價百分之三
箇五十分之一
一箇年

但本條地物之租率
土地之性質
揭付地價
國務大臣
國武
日
法
居
年
付
之
日
容
淺
院

按正地租條例の旨を

現行の地租は百分の二分を度とする

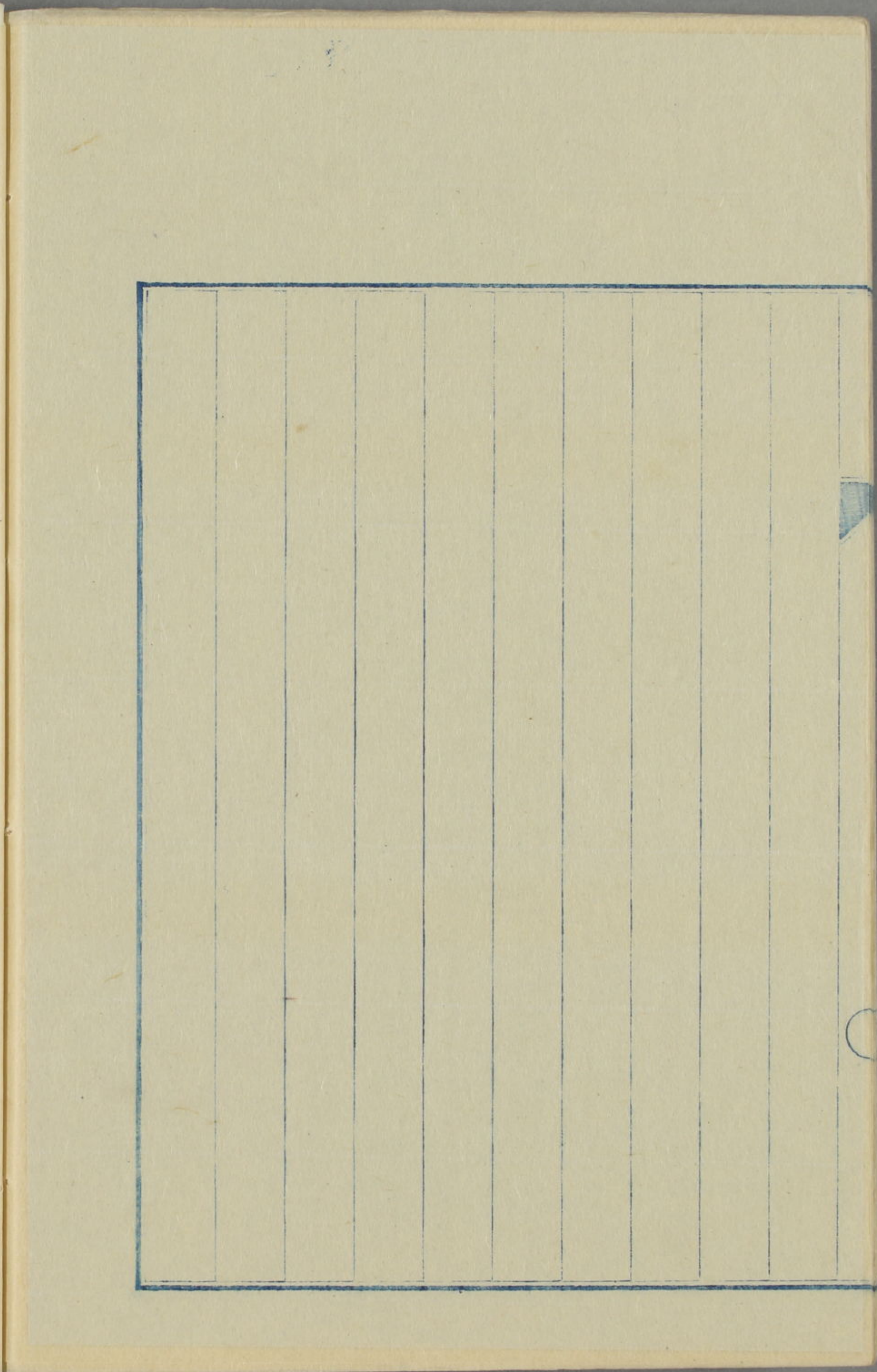
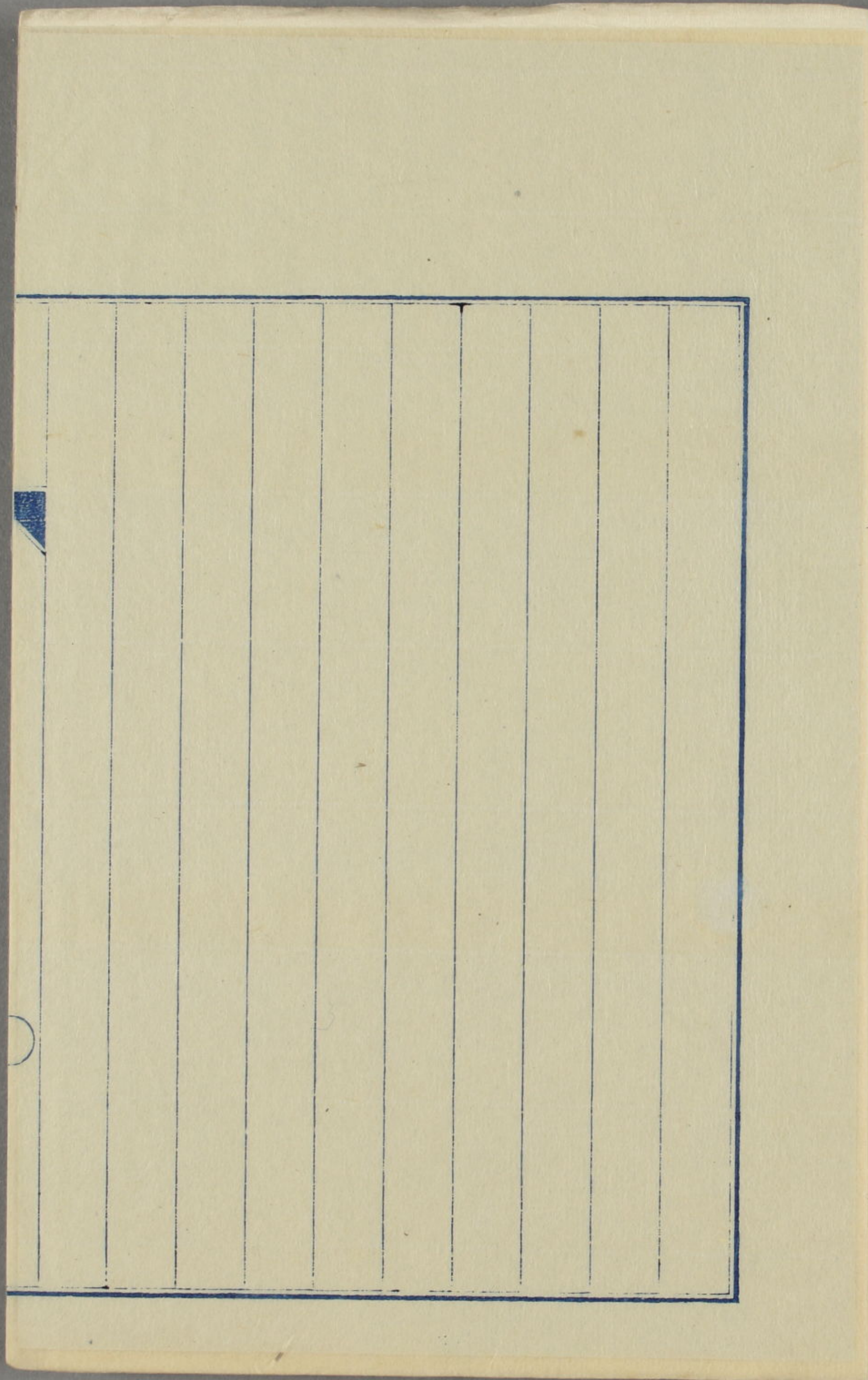
百分の二分を度とするは法要の旨を以て全國多端に於

全國の通一の地租を度とするは國家財政の

許すべしと先きの案に於ては反對の意見が表

れたるに對しては均て反對の意見が表

れたるに對しては均て反對の意見が表



叙従六位 山下源太郎 三月二日官報

一月六日倫敦着十時午後時廿分發車八時二分

ニューカッセル着アームストロング工場より出立計りノ處、下宿

此邊一帶市街商賈、地離レ工場、出勤、技手及以役人

共ニ極々静寂ナリ

